

令和6年度大阪府相談支援従事者 現任研修

現任事前課題(1)

事例報告書(記入例)

受講番号 ()
受講者氏名 ()

報告作成年月日	X 年 9 月 6 日
報告者	所属 受講者本人の所属 氏名 受講者本人の名前

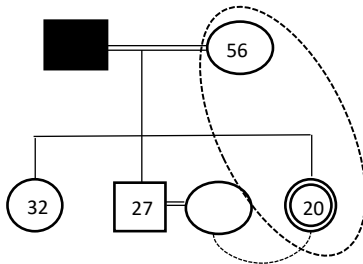
事例報告のタイトル	本人の望む生活を実現するために
検討課題	(支援する上で相談支援専門員として検討したい課題) 本人は、家からY就労移行支援事業所に通所していたが、同居の母が脳梗塞で倒れ、入院。家で一人の生活は戸締りや火の始末など安全面はもちろん、食事や洗濯といった家事も困難であり、姉や兄嫁が家に来て本人の世話をしているが、それぞれ家庭を持っており、継続的な援助は難しい。母は退院後のリハビリ通院を含め身体の状態が安定するのに2年位はかかると言われており、その間、本人の生活をどうしたら良いか、仕事に就くために頑張ってきている通所をどうしたら良いか。

ケースの概要

年月	生活歴 (教育、職業など生活上のエピソード)	支援の展開 (支援開始からの経過、現状)	本人をめぐる支援の展開 (前任者における本人のニーズや支援上の課題)
X年 10月	小学校入学前に父が死去、以降、母が就労しながら懸命に子育てを行う。中学校入学前に療育手帳を取得(B1判定)、小中学校は支援学級に在籍、高校は支援学校高等部に入学。高等部では音楽に熱心になり、友達関係も広がる。卒業後、地域の就労移行支援事業所に通うが、なかなか就労につながらず、進路検討時期に母が倒れ、今後の生活のあり方等において相談支援事業所が相談対応することになる。	X年7月(直近)個別支援計画 X年9月3日 相談受付票 X年9月6日 訪問票・一次アセスメント票	→2つをまとめて記載しても可 (現任者における本人のニーズや支援上の課題) 卒業後、地域の就労移行支援事業所に通うが、なかなか就労につながらず、進路検討時期に母が倒れ、今後の生活のあり方等について検討する必要がある。本人は、母との暮らしでいいと思う反面、家を出て一人暮らしを試みたいと思っている。ただ、一人暮らしの具体的なイメージは持っていない。
年齢:20	障がい支援区分:3		

障害名(診断名)	知的障がい、療育手帳 B1
居住形態	持ち家/借家・マンション・アパート・一戸建て /施設()

家族構成、家族の状況(ジェノグラム)



医療の状況(通院、服薬の状況、受診歴等)

軽いてんかん発作があり、S病院を3か月に1回受診、診察と投薬処方を受けている。中学2年生時に1回授業中に軽い脱力発作があつてからは服薬コントロール出来ており、発作は見られない。受診には母が連れて行っていた。主治医はM医師で、小学6年生の頃から本人を診ており、療育手帳について、学校の先生と共に取得を勧めた経緯がある。

本人の主訴	(本人の意向を本人の言葉、表現で) お母さんが病気になって入院したので、早く良くなってもらって、また一緒に暮らしたい。そして、Y就労移行支援事業所で知り合い仲良かった友達のDさんが家を出て一人生活を始めているので、自分も一人楽しく生活してみたい。仕事は、どんなことが自分に向いているかわからない。でも仕事はしてみたい。お給料ももっと欲しい。かっこいい男性と結婚して、お姉ちゃんみたいに赤ちゃんも産みたい。
家族の主訴	(家族または周囲の人の意向や希望) 母は、退職したら本人と二人で暮らそうと思ったり、自身が亡くなってからのことを考え、本人の自立生活を促す動きをしなければならなかったり、思い悩み続けている中で、脳梗塞で倒れ、入院するに至った。本人の昼間の活動としては今行っている事業所から紹介してもらって、何らかの仕事をして欲しいと思っている。

支援の状況

	サービス名称	支援内容	頻度	備考
現在利用している医療・福祉サービス等	①訓練等給付(就労移行支援) ②自立支援医療(精神)	①Y就労移行事業所通所 ②S病院にて診察と投薬処方を受けている。	①週5日 ②1回/ 3か月	
その他の支援(インフォーマルな支援や創出された支援等)	民生委員 (知的)障がい者相談員			